

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02438

研究課題名(和文)生活変化/生活改善/生活世界の民俗学的研究 日中韓を軸にした東アジアの比較から

研究課題名(英文)The change of life/The Improvement of Life/TheFolkloreStudy of the Cosmos of Life:From the Perspective of the Comparison of East Asia centering on Japan, China and South Korea

研究代表者

小島 孝夫(Kojima, takao)

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：60286903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では沖縄県を含む日本・中国・台湾・韓国における生活改善運動の実態と、日本における高度経済成長期を現出させた国民の日常生活の平準化意識の形成を検証するために、生活改善諸活動に関するデータベースの作成を行なった。

国内外での現地調査は新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画どおりに実施することができなかったが、今後の生活改善運動に関する研究の深化と、東アジア全域を対象とした日常生活の平準化意識の形成過程を検討するための基礎資料として、『生活変化/生活改善/生活世界の民俗学的研究 日中韓を軸にした東アジアの比較から』(全6巻)の報告書を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで主要な研究対象とされてこなかった第二次世界大戦後の日本における生活改善運動の実践と展開に関するデータベースを作成することができたことで、当該研究に取り組む研究者に基礎資料を提供することができるようになった。データベースを共有していくことで、当該研究の深化が図れるようになった。

また、日本国内のみを対象にした研究では生活改善諸活動と高度経済成長期との連続性に注目しがちであったが、東アジアを研究対象領域としたことで、グローバル化の展開への受容や対抗という段階までの連続性を確認することができた。第二次世界大戦後の地球規模での平準化意識の形成という研究課題を提示することができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, I have worked on making the database for all kinds of activities concerning the life-improving activity, in order to examine the actual condition and results of the life-improving activities in Japan, including Okinawa prefecture, China, Taiwan, and South Korea. As for conducting the local survey at home and abroad, I could not reach the original research plan, because it was difficult to conduct the face-to-face research both at home and abroad due to the COVID-19 pandemic. However, I achieved the publication of the report of the results of the research (in 6 volumes), titled The Change of Life/The Improvement of Life/The Folklore Study of the Cosmos of Life: From the Perspective of the Comparison of East Asia centering on Japan, China and South Korea in which I attempted to deepen the research in the future.

研究分野：日本民俗学

キーワード：生活変化 生活改善 生活世界 生活実践 東アジア 民俗学 比較研究 平準化

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の基本的な研究対象は、第二次世界大戦後の民主化政策の展開の礎となった生活改善運動とその後展開された新生活運動である。

これらの運動は昭和 30 年代に現出した日本の高度経済成長期を創出する日常生活の平準化に対する意識改革を湧出する役割を果たした。この過程がなければ日本の高度経済成長期は違った状態で現出したものと考えられる。

こうした社会的役割を果たした生活改善諸活動に関する総合的な研究はこれまで行なわれておらず、自治体史編纂事業等で事例報告される程度であった。

近年、日本民俗学と近現代史の領域から田中宣一編『生活の革命』(農文協、2011)と大門正克編『新生活運動と日本の戦後』(日本経済評論社、2012)が相次いで上梓され、日本における生活改善運動研究の必要性が再定義されることになった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は日本で展開された生活改善諸活動の実態を検証することで、生活改善諸活動の対象事象がどのようにして発見され共通の課題として共有されていったのかを明らかにすることを基点とした。

また、中国・韓国・台湾などの東アジアの国ぐにでも第二次世界大戦後にほぼ同時期に生活改善運動に類似した諸活動が展開されており、日常生活の平準化が展開されており、米軍統治下の沖縄県においてもアメリカの日常生活からの強い影響を受けた生活改善運動が実施されていた。

次いで、国内で同時期に展開された生活改善運動の実態を明らかにすることで、第二次世界大戦後に農地解放を契機として展開された農村社会の民主化に加えて、農村社会の平準化を試みようとした生活改善運動の実践と成果を明らかにしていくことを目的とした。

こうした国内外の生活改善諸活動の展開と成果を検証していくことで、日本国内では高度経済成長期との連続性を前提としたが、その後地球規模で展開されていくことになるグローバル化の展開に対する受容や対抗の実態を東アジア全域で検証していくこと長期的な研究目的とした。

### 3. 研究の方法

研究の方法は二つに大別される。一つは日本国内で収集した生活改善運動・新生活運動関係団体などが実施した活動記録を時系列でデータベース化する方法である。

他方は中国・韓国・台湾での生活改善関係資料の収集と関係者への対面調査の実施である。各調査対象地での資料の保存状態や生活改善諸活動関係者の所在確認を行い、資料収集と同時にインタビュー調査等を行うという方法である。

両者の成果を統合することで、東アジア全域での日常生活の改変や平準化に関する展開を確認していくを最終的な到達目標とした。

### 4. 研究成果

本研究では沖縄県を含む日本・中国・台湾・韓国での生活改善運動の実態と成果を検証するため、国内外での現地調査と日本国内を主対象とした生活改善運動諸活動データベース作成作業を実施した。

国内外での現地調査の実施については新型コロナウイルス感染症の影響で国外での調査をはじめ国内での調査でも対面調査の実施が困難となり、当初の研究計画に到達することができなかったが、今後の研究の深化を図るための『生活変化 / 生活改善 / 生活世界の民俗学的研究 日中韓を軸にした東アジアの比較から』研究成果報告書(全6巻)を刊行することができた。本報告書は全国の生活改善関係機関等が発行し他雑誌や活動記録を収集し、それらを期間や自治体別に整理し、県別に時系列に則して記述した。

このデータベース作成作業により、国内で展開された生活改善諸活動には、主体となる地域や集団により改善対象に差異があり、全国的な運動が展開されていく過程で当該地域の自然環境や社会環境に応じた地域差が生じていった状況を確認することができた。

また、生活改善運動と新生活運動の対象地や目的が異なっていることを明確に把握することができた。生活改善運動が地方の農山村地域を主対象にして活動していたのに対して、新生活運動では都市部や会社等が対象となる場合が多く、都市空間や職場の清掃活動などが念頭にかけており、後者の場合は日常生活を対象としていながら、地域社会の平準化とはかけ離れた目的で展開されていたことが確認できる、1964年に開催されることが決定した東京オリンピックに向けて、都市空間の清掃や整備、美観の創出といったことが意思されていたことが確認できた。本研究では、両者を区別せずに生活改善諸活動と捉えてきたが、地域別のデータベースを作成したことで、両者の関係や差異が明確になった。

なお、計画どおりに実施できなかった国内外での現地調査については個別に成果報告を続けることとし、それらの成果の集成を刊行するように努めたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 及川祥平	4. 巻 300
2. 論文標題 民俗信仰研究の動向と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 83-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 及川祥平	4. 巻 35
2. 論文標題 史跡の形成と地域間交流－山梨県民の長篠・設楽原への関与に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民俗学論叢	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 及川祥平	4. 巻 254
2. 論文標題 「人生儀礼」考－現代世相への対応に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城文藝	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 及川祥平	4. 巻 36
2. 論文標題 現代の産育儀礼をめぐる予備的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本常民文化紀要	6. 最初と最後の頁 141-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川祥平	4. 巻 45
2. 論文標題 害虫と生活変化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民俗学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 31-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川祥平・加藤秀雄	4. 巻 1
2. 論文標題 小泉八幡神社秋祭の変化と現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩田一正 (編) 『「環境資源」に見られるグローバル現象の動態』	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川祥平	4. 巻 1
2. 論文標題 災禍と「日常の記録」 - 宮城県気仙沼市旧小泉村での調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 標葉隆馬 (編) 『』災禍をめぐる「記憶」と「語り」』	6. 最初と最後の頁 269-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加賀谷真梨	4. 巻 167
2. 論文標題 沖縄・八重山諸島の台所の近代化ー波照間島を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊 民族学	6. 最初と最後の頁 96-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加賀谷真梨	4. 巻 35
2. 論文標題 地域福祉が変える死のかたち－沖縄・波照間島での実践を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較家族史研究	6. 最初と最後の頁 56-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加賀谷真梨	4. 巻 1
2. 論文標題 地域福祉改変的 ” 死亡 ” - 以沖縄波照間島の実践例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 張季風他 (編) 『少子高齢化社会と家庭 中日政策与实践比較』	6. 最初と最後の頁 318-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 35
2. 論文標題 韓国における博物館の変容と文化政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術文化紀要	6. 最初と最後の頁 37-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 29 - 1
2. 論文標題 ポストコロナル都市と歴史の資源化－韓国木浦市における日本式建築物の保存と「木浦近代歴史館	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 1-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島孝夫	4. 巻 44
2. 論文標題 「あきらめない」という生き方ー山梨県南巨摩郡早川町茂倉の総人足の試みをめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城大学民俗学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 57-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島孝夫	4. 巻 36
2. 論文標題 有形民俗資料の保存と活用の課題ー文化財保護制度運用の場の現状をめぐってー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本常民文化紀要	6. 最初と最後の頁 47-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 5-4
2. 論文標題 対話民衆：「民俗語彙」與郷土知識	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青海民族大学学报	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 1
2. 論文標題 中国農民画的發展趨勢及其可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東方論叢 (青島大学学报)	6. 最初と最後の頁 5-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 2
2. 論文標題 従「伝統工芸品」到「日本遺産」 - 名古屋の「有松・鳴海扎染」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民芸	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内由紀子	4. 巻 2
2. 論文標題 郷愁のコロッケ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新府中市史民俗分野報告書 書きとめられた日常	6. 最初と最後の頁 208-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦 (周星、張玲 訳)	4. 巻 5-4
2. 論文標題 墓碑在現代中国的普及和 " 孝子 " - 来自陕西省中部農村的案例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青海民族大学学报 (社会科学版)	6. 最初と最後の頁 110-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 23
2. 論文標題 原住民族実験教育：台中市博屋瑪国民小学の事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 165-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 及川祥平、クリスチャン・ゲーラット	4. 巻 6号
2. 論文標題 ドイツ語圏民俗学の日常学化をめぐる－その経緯と意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日常と文化	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 加賀谷真梨	4. 巻 167
2. 論文標題 沖縄・八重山諸島の台所の近代化－波照間島を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊 民族学	6. 最初と最後の頁 96-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子祥之	4. 巻 33
2. 論文標題 オビシャ行事をめぐる地域社会の縮小戦略－村規約にみる現代化への対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生活学論叢	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子祥之	4. 巻 55
2. 論文標題 『農業雑誌』にみる作名義隣の農業間－災害を生き抜く生業の模索と提案	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子祥之	4. 巻 63
2. 論文標題 福島県川内村小田代集落の儀礼文書(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 1-79
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子祥之	4. 巻 85
2. 論文標題 東日本大震災と変わりゆく生活文化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BIOCITY	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 28-1
2. 論文標題 韓国の文化財行政と「近代」-「登録文化財制度」の新設を中心に-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島孝夫	4. 巻 51-12
2. 論文標題 民具実測図作成の意義と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民具マンスリー	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 2019-1
2. 論文標題 汚穢・潔淨觀念の変遷與「廁所革命」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 雲南師範大学学報	6. 最初と最後の頁 85-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 147
2. 論文標題 ツォウの名前の過去と現在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立民族学博物館調査報告	6. 最初と最後の頁 127-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島孝夫	4. 巻 5
2. 論文標題 東京都多摩地方における生活改善諸活動の諸相ー立川市砂川の事例を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日常と文化	6. 最初と最後の頁 17 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周 星	4. 巻 5
2. 論文標題 百年の不体裁 - 現代中国のトイレ革命	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日常と文化	6. 最初と最後の頁 49 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦	4. 巻 5
2. 論文標題 「生活」という語で我々は何を捉えたいのか、何が捉えられるのかー初日の各発表へのコメントとして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日常と文化	6. 最初と最後の頁 63 - 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 加賀谷真梨
2. 発表標題 米軍統治下沖縄における「生活改善」関連事業
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会「人類学/民俗学の学知と国民 国家の関係ー20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 「中日韓民族学博物館の現状と未来」の経験から
3. 学会等名 日本民俗学会 第71回年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 從一個研究者視点来看当代日本民俗学的新動向
3. 学会等名 「民俗学与当代社会」シリーズ学術サロン (中国、南方科技大学社会科学高等ハイエンド学術フォーラム) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加賀谷真梨
2. 発表標題 What is Folk Art ?
3. 学会等名 日本民俗学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金子祥之
2. 発表標題 儀礼文書にみるオピシヤ行事の歴史的変容－酒直区有文書2500点の分析から
3. 学会等名 田園都市線沿線談話会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 台湾原住民族が経験した「生活改善」/「生活改進黨運動」についての初歩的検討
3. 学会等名 第11屆台日原住民族研究論壇
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島孝夫
2. 発表標題 民間博物館の行方、民俗資料の行方－小川原湖民俗博物館旧蔵資料を中心に－
3. 学会等名 日本民俗学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 越境的舞蹈与民俗主義
3. 学会等名 中国・北京舞蹈学院（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 從「一国民俗学」到「比較民俗学」 - 中日比較民俗研究的可能性
3. 学会等名 中国西安外国語大学日本文化經濟学院東北亜研究中心・シリーズ学术講座（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 現代中国トイレ革命について
3. 学会等名 神奈川大学常民文化研究所第122回研究会（オンライン）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 金子祥之編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 跡見学園女子大学地域文化研究会	5. 総ページ数 184
3. 書名 川内村第七行政区東山の民俗－変わりゆく地域文化と原発災害	

1. 著者名 周星	4. 発行年 2019年
2. 出版社 商務印書館	5. 総ページ数 300
3. 書名 道在屎溺：当代中国的厕所革命	

1. 著者名 周星	4. 発行年 2020年
2. 出版社 巨流圖書有限公司	5. 総ページ数 379
3. 書名 死給&#20320;看：對一壘自殺現象的法人類学研究	

1. 著者名 アン・ミジョン(小島孝夫 監修)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アルファベータブックス	5. 総ページ数 236
3. 書名 済州島海女の民族誌－「海畑」という生活世界	

1. 著者名 岩本道弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・川松あかり(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 261
3. 書名 民俗学の思考法－<いま・ここ>の日常と文化を捉える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	周星 (Syuu sei) (00329591)	神奈川大学・国際日本学部・教授  (32702)	
研究分担者	金子 祥之 (Kaneko yoshiyuki) (10758197)	東北学院大学・文学部・講師  (31302)	
研究分担者	金 賢貞 (Kimu kennjya) (20638853)	亜細亜大学・国際関係学部・准教授  (32602)	
研究分担者	及川 祥平 (Oikawa syouhei) (30780308)	成城大学・文芸学部・専任講師  (32630)	
研究分担者	竹内 由紀子 (Takeuti yukiko) (40587987)	女子栄養大学・栄養学部・准教授  (32625)	
研究分担者	加賀谷 真梨 (Kagaya mari) (50432042)	新潟大学・人文社会科学系・准教授  (13101)	
研究分担者	田村 和彦 (Tamura kazuhiko) (60412566)	福岡大学・人文学部・教授  (37111)	
研究分担者	宮岡 真央子 (Miyaoka maoko) (70435113)	福岡大学・人文学部・教授  (37111)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡部 圭一  (Watanabe keiiti)  (80454081)	滋賀県立琵琶湖博物館・研究部・主任学芸員    (84202)	
研究分担者	佐山 淳史  (Sayama atushi)  (20784359)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行）    (82503)	削除：2018年11月9日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関